

看護理論

必修

開講年次：1 年次後期

科目区分：講義

単位：1 単位

講義時間：15 時間

■**科目のねらい**：看護理論は、対象の個性にあわせて適切な看護を提供するために必要不可欠である。この授業においては、看護理論の特徴と機能を確認し、看護過程と看護理論の関係を明確にする。また、様々な看護理論について、グループワークを通して理解を深めるとともに、既存の看護理論の実践への活用可能性と限界を明らかにし、新たな看護理論の開発を展望する。

■**到達目標**：①理論の成り立ち、看護理論の特徴と機能について理解する。
②様々な看護理論の特徴と限界を確認し、看護理論開発の必要性を確認する。
③看護理論・看護過程の関係を理解し、看護理論を看護実践に活用する方法を検討する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎定廣 和香子・檜山 明子

■**授業計画・内容**：

第 1 回 看護理論概説①

第 2 回 看護理論概説②

第 3 回 看護のメタパラダイム：ナイチンゲール「看護覚え書き」・グループ・ワークガイダンス

第 4 回 看護業務の定義づけ：ヘンダーソン「看護の基本となるもの」

第 5 回 様々な理論家と理論の特徴I（グループ・ワーク）

第 6 回 キング看護理論

第 7 回 様々な理論家と理論の特徴II（学生発表：解説）*

第 8 回 看護過程と看護理論・試験オリエンテーション

*グループワークの発表は、2グループに分かれて実施する。

■**教科書**：フロレンス・ナイチンゲール著 湯楨ます他訳：看護覚え書き 改訂第7版、現代社、2011

ヴァージニア・ヘンダーソン著 湯楨ます・小玉香津子訳：看護の基本となるもの 日本看護協会出版会、2016

■**参考文献**：別途提示

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	◎	○	◎	到達目標の達成度	60%
演習成果発表	○	◎	○	別途評価基準を提示	40%
出席				2/3未満の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：看護理論は、効果的な看護を展開する上で必要不可欠です。この授業では、看護理論に関する初歩的な知識を提供すると共に、看護実践への活用の実際について解説します。難しい用語などが多くなりますので、わからないことなどは、ためらわず確認して下さい。看護理論に関する知識は、いつかきっと皆さんを助けてくれます。